まま食わね嫁

うって欲だテデで、後妻アッパもらうたで、
「まま食わねアッパいねでろが
　まま食わねアッパいねでろが」
たけあるどぎ、
「おれ、まま食わね嫁だはて、もらってけろ」
ってそうふにして来て、
「したらもらう」
たげ、ほんとにまま食ねで働いでけで、えかったけな思って、不思議だなと思って、そのテデ、
「おれ、きょう町さ行ってくるな」
ってそいって行って、梁の上さ上って見でだば、大きだ釜さ米いっぺ研いで、まま炊で、なんとすると思ったば、そえで一所懸命焼飯にぎって、いっぺおいで、そして髪ほどで、たば頭さ、ザクッと大きだ口あいで、そさどんどんどん焼飯入れでやって、食たはで、そいでそのテデびっくりして、とてもおかなくて、こえだばおかねと思ってたば、ある時アバ大きだ桶しょってきて、
「テデ、こさはれ」
「なんす」
「まずこさはれ」
アバ、テデどごおげさいれで、ゴーンとしょって行って、ああ重でなって、土手っこさ休んだどぎ、そのどぎテデ、桶からはい上ってそこの菖蒲さ入ったけ、アバ鬼だがら入れねくて、テデ助かったどや。とっぴんからりのさんしょのみ。それで今でも五月五日に菖蒲とか屋根にさして祝っているのだど。